

# スーパーマーケット景気動向調査

2023年7月調査結果（6月実績）  
（2023年7月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

## 【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

---

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

## 【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

---

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会  
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
オール日本スーパーマーケット協会

## 7月調査（6月実績）結果概況

### 現状判断は堅調、見通し判断も小幅に改善

6月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から-0.2の49.4、見通し判断は前月から+1.7の45.5となり、現状判断は前月水準、見通し判断は小幅に改善した。

経営動向調査では、売上高DIはわずかに上昇、収益DIは前月から下落した。引き続き生鮮品仕入原価DIと食品仕入原価DIが過去最高水準で推移、販売価格DIの高止まりが続いている。買上点数の減少が収まりつつあり、客単価DIは上昇基調を維持している。来客数DIはほぼ前月水準で推移した。

カテゴリー動向調査では、前年の土物相場高騰の反動を受けた青果DI、衛生用品特需の反動が続く非食品DI以外はプラスで推移している。相次ぐ値上げ、家庭の電気・ガス代高騰等による節約志向の高まりで、家庭内食事需要が堅調に推移しているかほか、気温が高く推移したことで涼味商材が好調。また、行楽・イベント需要の回復も好調を牽引している。（最終ページに詳細掲載）

景況感調査では、現状判断に大きな変化はみられなかったが、見通し判断が小幅に改善をみせた。（長期傾向についてはP11参照）

前月同様に商品単価の上昇が続いているが、人流の活発化などもあって中食需要が引き続き伸長しており、また節約志向による内食需要も堅調で、売上高としては好調な販売動向が続いている。一方で、コモディティ商品については、より低価格の商品を求める傾向が強まっているとの意識も広がっている。食品の価格改定は一旦ピークとの見方も広がっているようだが、今後どのように客単価を維持していくか、どう利益を確保していくか、検討が急がれる。

#### 景況感調査

##### 現状判断

<b>景気判断DI</b> 当月：49.4 (-0.2) 前月：49.6	<b>消費者購買意欲DI</b> 当月：46.3 (+0.1) 前月：46.2	<b>周辺地域 競合状況DI</b> 当月：44.8 (0.0) 前月：44.8	<b>店舗周辺地域 景気判断DI</b> 当月：48.4 (+0.7) 前月：47.7
--	---	--	---

##### 見通し判断

<b>景気判断DI</b> 当月：45.5 (+1.7) 前月：43.8	<b>消費者購買意欲DI</b> 当月：45.1 (+1.7) 前月：43.4	<b>周辺地域 競合状況DI</b> 当月：44.2 (+1.0) 前月：43.2	<b>店舗周辺地域 景気判断DI</b> 当月：48.4 (+1.5) 前月：46.9
--	---	---	---

#### 経営動向調査 経営状況

<b>売上高DI</b> 当月：7.0 (+2.2) 前月：4.8	<b>客単価DI</b> 当月：18.6 (+2.5) 前月：16.1	<b>来客数DI</b> 当月：-9.2 (-0.1) 前月：-9.1	
<b>収益DI</b> 当月：1.0 (-3.1) 前月：4.1	<b>販売価格DI</b> 当月：24.7 (-0.2) 前月：24.9	<b>生鮮品仕入原価DI</b> 当月：18.4 (+0.9) 前月：17.5	<b>食品仕入原価DI</b> 当月：25.0 (+0.3) 前月：24.7

#### カテゴリー動向

<b>青果DI</b> 当月：-4.6 (+1.9) 前月：-6.5	<b>水産DI</b> 当月：2.6 (+2.3) 前月：0.3	<b>畜産DI</b> 当月：8.4 (-0.3) 前月：8.7	
<b>惣菜DI</b> 当月：15.5 (-0.4) 前月：15.9	<b>日配DI</b> 当月：17.3 (+1.8) 前月：15.5	<b>一般食品DI</b> 当月：6.3 (+4.8) 前月：1.5	<b>非食品DI</b> 当月：0.0 (+3.4) 前月：-3.4

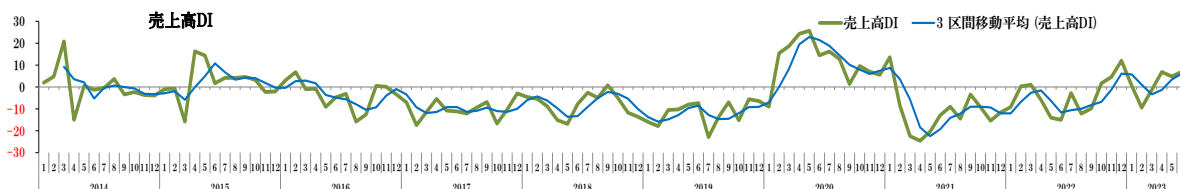
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

# 結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

## 1. 売上高DI

当月小幅に上昇し、プラス幅を拡大

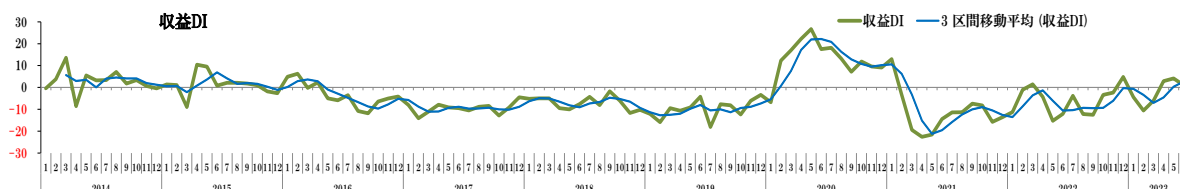
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	7.3	19.2	24.9	44.1	4.5	4.8
<b>売上高 (当月)</b>	<b>7.1</b>	<b>15.6</b>	<b>26.6</b>	<b>43.5</b>	<b>7.1</b>	<b>7.0</b>



## 2. 収益DI

当月小幅に下降し、プラス圏を縮小

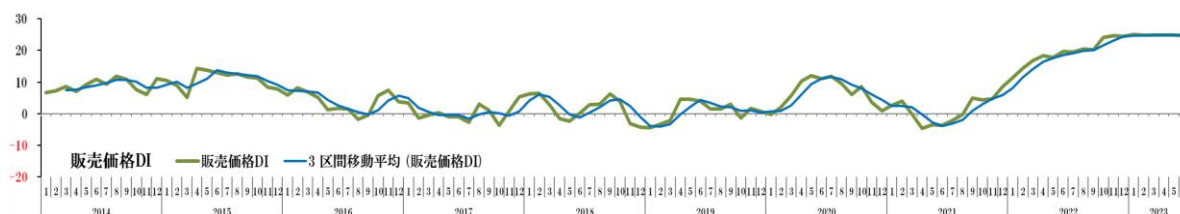
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	6.9	20.0	32.6	30.9	9.7	4.1
<b>収益 (当月)</b>	<b>9.9</b>	<b>21.2</b>	<b>30.5</b>	<b>31.8</b>	<b>6.6</b>	<b>1.0</b>



## 3. 販売価格DI

前月から横ばい、引き続き最高値付近で推移

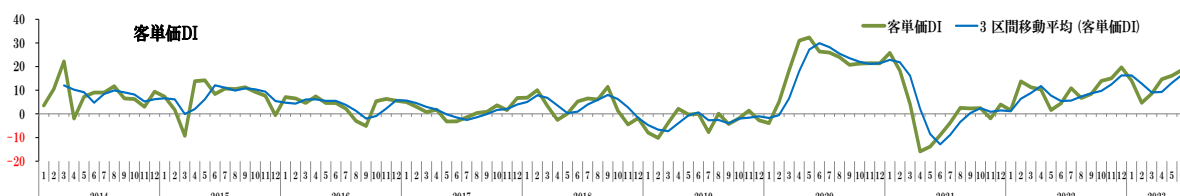
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.6	1.1	11.9	71.2	15.3	24.9
<b>販売価格 (当月)</b>	<b>0.0</b>	<b>1.3</b>	<b>11.3</b>	<b>74.8</b>	<b>12.6</b>	<b>24.7</b>



## 4. 客単価DI

前月からわずかに上昇し、プラス幅を拡大

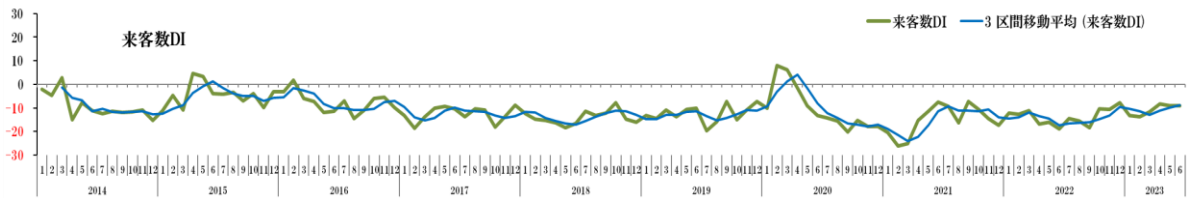
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	2.3	6.9	18.3	69.1	3.4	16.1
<b>客単価 (当月)</b>	<b>0.0</b>	<b>4.6</b>	<b>22.4</b>	<b>67.1</b>	<b>5.9</b>	<b>18.6</b>



## 5. 来客数 DI

前月から横ばいでマイナス圏での推移

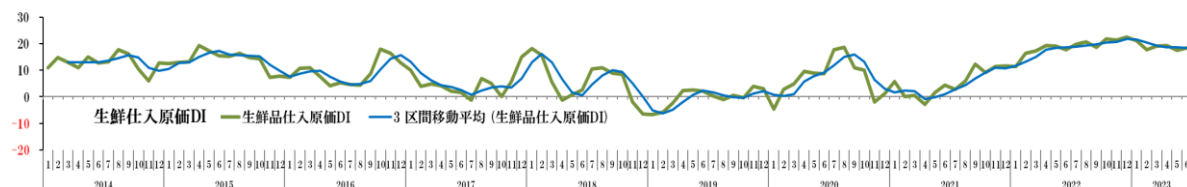
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	11.4	34.9	34.3	17.7	1.7	-9.1
<b>来客数 (当月)</b>	<b>6.5</b>	<b>44.4</b>	<b>28.8</b>	<b>19.6</b>	<b>0.7</b>	<b>-9.2</b>



## 6. 生鮮仕入原価 DI

前月から小幅に上昇、二桁プラス水準で推移

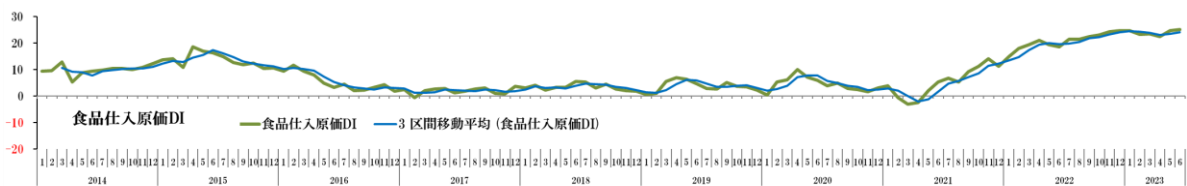
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	3.4	6.3	19.0	59.2	12.1	17.5
<b>生鮮仕入原価 (当月)</b>	<b>1.4</b>	<b>3.4</b>	<b>24.3</b>	<b>62.2</b>	<b>8.8</b>	<b>18.4</b>



## 7. 食品仕入原価 DI

前月から横ばい推移、26 か月連続プラス圏で推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	1.2	3.5	14.5	57.0	23.8	24.7
<b>食品仕入原価 (当月)</b>	<b>1.4</b>	<b>1.4</b>	<b>13.0</b>	<b>64.4</b>	<b>19.9</b>	<b>25.0</b>

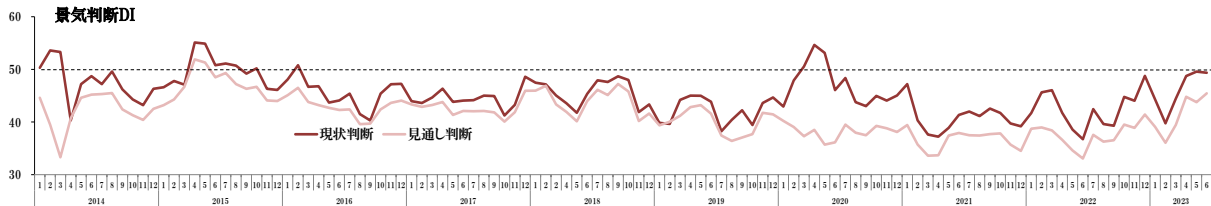


## II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

### 1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断は前月水準も、見通し判断が小幅に改善

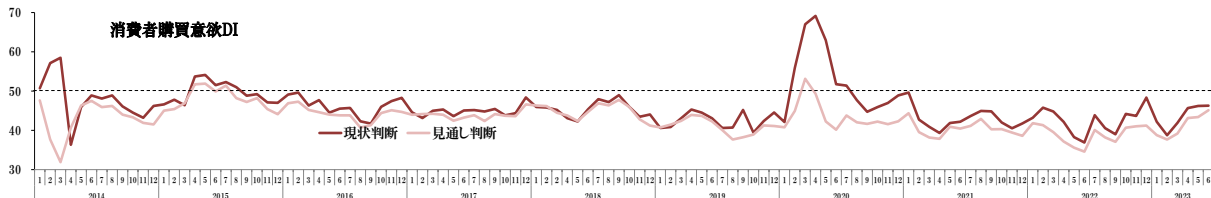
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	1.7	15.3	66.7	15.8	0.6	49.6
<b>【現状】景況判断 (当月)</b>	<b>2.6</b>	<b>17.5</b>	<b>59.7</b>	<b>20.1</b>	<b>0.0</b>	<b>49.4</b>
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	4.0	28.2	56.5	11.3	0.0	43.8
<b>【見通し】景況判断 (当月)</b>	<b>3.9</b>	<b>24.7</b>	<b>57.1</b>	<b>14.3</b>	<b>0.0</b>	<b>45.5</b>



### 2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は前月水準も、見通し判断が小幅に改善

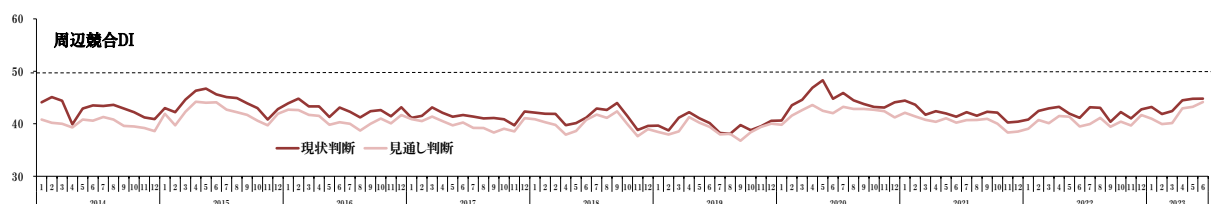
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.7	23.2	64.4	10.2	0.6	46.2
<b>【現状】購買意欲 (当月)</b>	<b>1.9</b>	<b>26.0</b>	<b>57.1</b>	<b>14.9</b>	<b>0.0</b>	<b>46.3</b>
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	2.8	30.5	57.1	9.6	0.0	43.4
<b>【見通し】購買意欲 (当月)</b>	<b>1.9</b>	<b>27.3</b>	<b>59.1</b>	<b>11.7</b>	<b>0.0</b>	<b>45.1</b>



### 3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断は前月水準も、見通し判断が小幅に改善

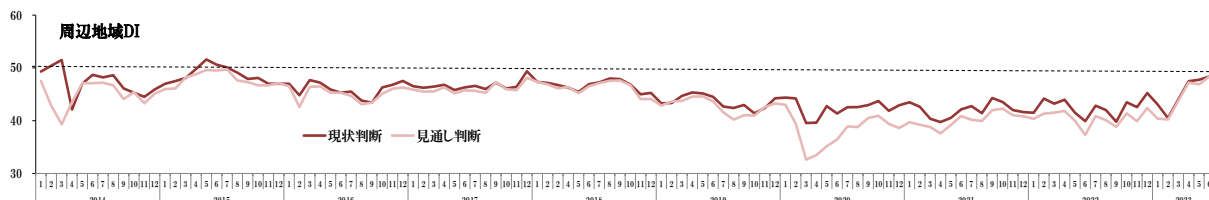
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	3.4	18.1	75.7	1.7	1.1	44.8
<b>【現状】競合状況 (当月)</b>	<b>3.9</b>	<b>19.5</b>	<b>70.8</b>	<b>5.2</b>	<b>0.6</b>	<b>44.8</b>
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	4.0	22.6	70.6	2.3	0.6	43.2
<b>【見通し】競合状況 (当月)</b>	<b>5.2</b>	<b>19.5</b>	<b>69.5</b>	<b>5.2</b>	<b>0.6</b>	<b>44.2</b>



#### 4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断共に小幅に改善

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.6	14.1	79.1	6.2	0.0	47.7
【現状】地域景気 (当月)	2.6	14.3	71.4	10.4	1.3	48.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	1.1	18.1	72.9	7.9	0.0	46.9
【見通し】地域景気 (当月)	2.6	16.9	66.2	13.0	1.3	48.4

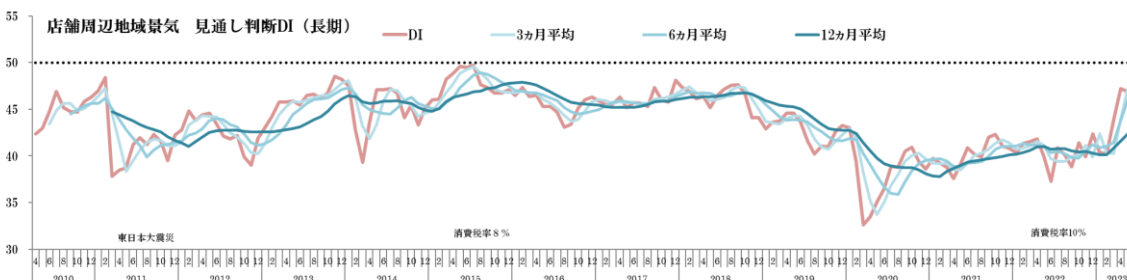
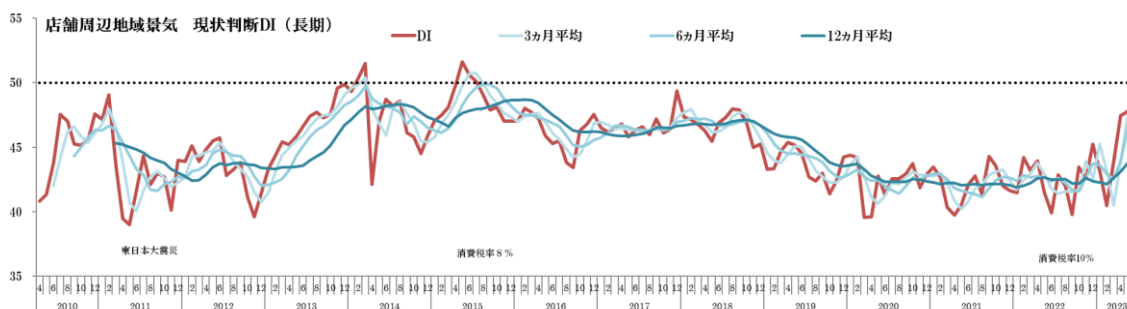


#### ・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。

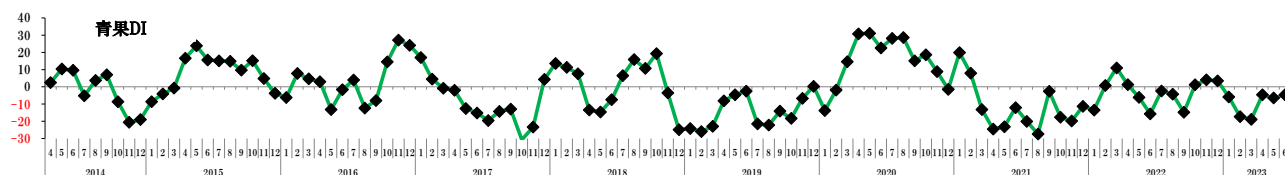
20年2月に大幅に悪化したのが、その後持ち直しの動きが続いた。21年以降は、感染状況により上下に振られる不安定な動きが続いた。22年4月以降悪化が続き、6月にはすべての移動平均線が下向きへと変化した。感染が再拡大した7月以降には一旦大幅な改善をみせた。その後10月に再び改善に転じたものの、23年3月以降は改善が続いている。



### Ⅲ. カテゴリー別動向

#### 1. 青果DI：-4.6（やや不調）

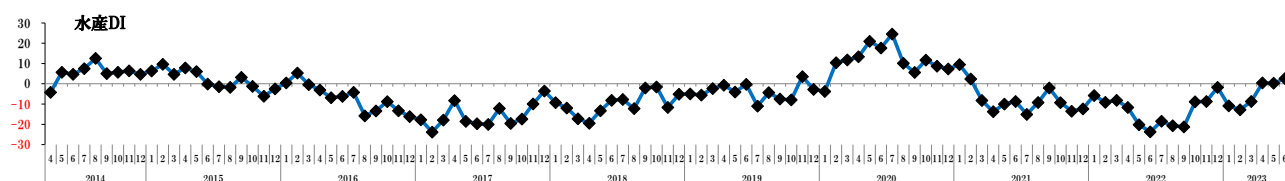
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	8.8	36.5	28.8	23.5	2.4	-6.5
<b>青果（当月）</b>	<b>9.6</b>	<b>32.2</b>	<b>27.4</b>	<b>28.8</b>	<b>2.1</b>	<b>-4.6</b>



青果は相場安の傾向だったが買上点数は伸び悩み、やや不調となった。前年の土物類高騰からの反動減が続いている。気温がやや高く推移したことでトマトやきゅうり、レタスなどのサラダ関連野菜が好調。一方で果実は相場高傾向となり、柑橘類は不調となった店舗が多かったが、さくらんぼは好調とする店舗が多かった。気温が高かった地域ではスイカやカットフルーツの動きがよかった。輸入果実ではバナナやキウイフルーツが好調となった。

#### 2. 水産DI：2.6（やや好調）

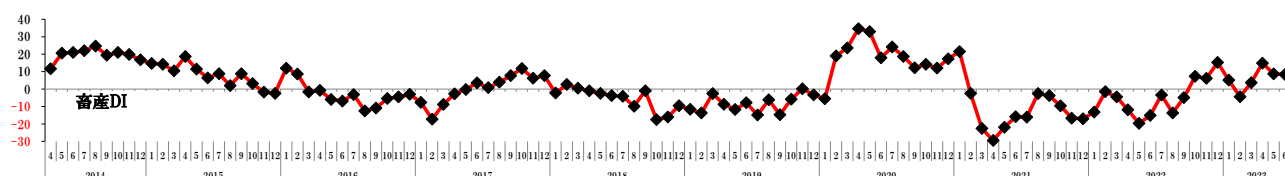
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	7.6	25.9	28.8	32.9	4.7	0.3
<b>水産（当月）</b>	<b>4.1</b>	<b>27.6</b>	<b>29.7</b>	<b>31.0</b>	<b>7.6</b>	<b>2.6</b>



引き続き燃料費や養殖飼料高騰により価格は高止まりが続く。特にまぐろは価格高騰の影響が大きい。刺身類ではタコやサーモンが好調となった店舗が多かった。カツオは入荷状況により好不調がわかれている。塩干は数量の落ち込みが小さく、好調な店舗が多い。うなぎは国産価格が高騰しているため伸び悩んだが、輸入品は気温の上昇を背景に好調に推移した。冷凍品や加工品の動きがよいとのコメントがみられた。

#### 3. 畜産DI：8.4（やや好調）

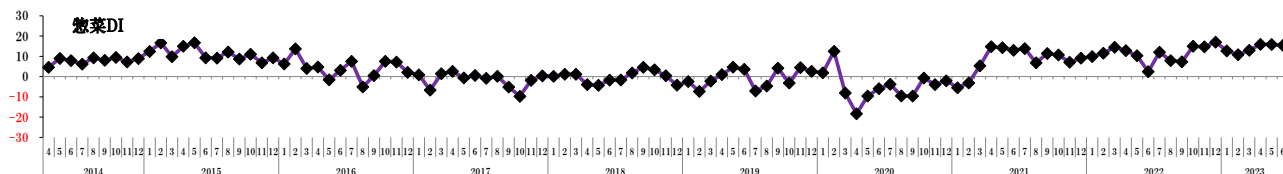
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	4.1	19.4	24.1	42.4	10.0	8.7
<b>畜産（当月）</b>	<b>3.4</b>	<b>20.5</b>	<b>24.7</b>	<b>41.8</b>	<b>9.6</b>	<b>8.4</b>



精肉全般で相場高が続いており、牛肉は不調、豚肉や鶏肉は比較的好調に推移した。牛肉では国産相場に落ち着きがみられているものの、引き続き輸入品の動きがよい。バーベキュー需要は苦戦したとのコメントもみられた。豚肉では挽肉など普段使いの商品を中心に好調。国産にも回復傾向がみられたが、輸入の動きがよい。鶏肉も高値が続いているが、ムネ肉を中心に好調に推移した。ハムやソーセージなどの加工肉は値上げの影響で好不調の判断がわかれている。売上高は確保できても利益が出にくい状況が続いている。

#### 4. 惣菜DI：15.5（好調）

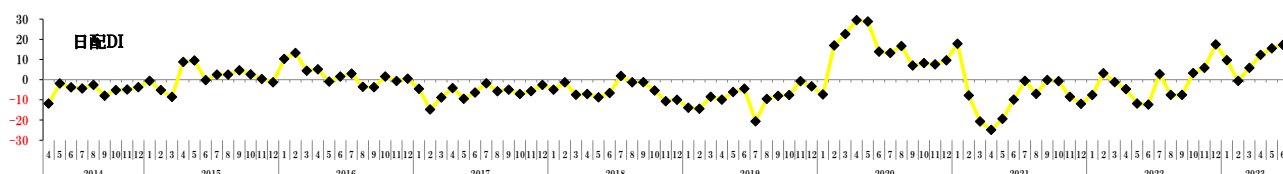
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	1.8	10.2	25.7	47.3	15.0	15.9
<b>惣菜（当月）</b>	<b>4.9</b>	<b>5.6</b>	<b>27.8</b>	<b>46.5</b>	<b>15.3</b>	<b>15.5</b>



全般的に買上点数が維持され、価格改定もあって一品単価が上昇、好調が持続している。家庭での電気・ガス代高騰や調理油の値上げで調理を避ける傾向にある、唐揚げやコロッケ、天ぷらなど揚げ物類が好調をけん引している。行楽需要やイベントの再開により注文販売も好調、昼食・夕食需要の回復も継続しており、米飯類の動きがよい。寿司や和惣菜は動きが鈍いが、つまみ類や焼鳥などが好調とのコメントが多い。

#### 5. 日配DI：17.3（好調）

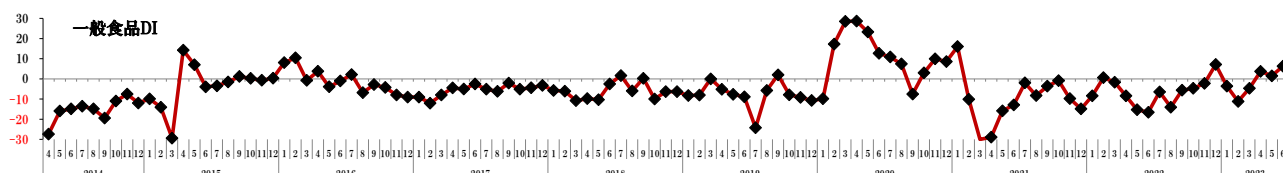
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	3.0	11.2	23.1	46.2	16.6	15.5
<b>日配（当月）</b>	<b>0.7</b>	<b>9.6</b>	<b>26.7</b>	<b>45.9</b>	<b>17.1</b>	<b>17.3</b>



値上げの影響が大きいカテゴリーとなっているが、全般的に買上点数の減少が収まり、一品単価上昇により、引き続き好調に推移している。価格高騰が続く鶏卵は、商品供給が回復傾向にあり、売上増となった。冷凍食品は引き続き好調を持続。洋日配ではデザート類は伸び悩んだが、チーズ、機能性乳酸菌飲料などが好調、和日配では納豆や豆腐などが好調となった。気温が高く推移し、涼味食材、飲料やアイスの動きがよかった。

#### 6. 一般食品：6.3（やや好調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	6.0	24.0	35.9	26.3	7.8	1.5
<b>一般食品（当月）</b>	<b>4.1</b>	<b>19.0</b>	<b>29.9</b>	<b>41.5</b>	<b>5.4</b>	<b>6.3</b>

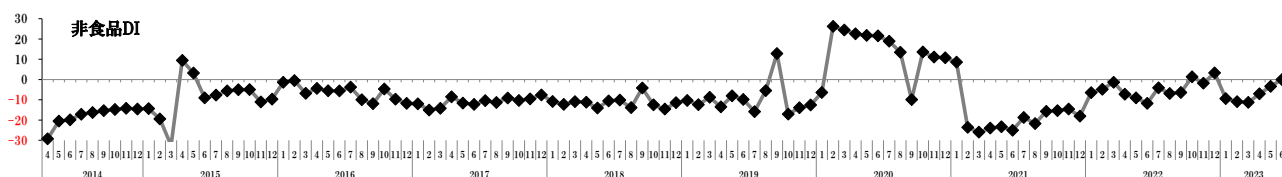


全般的に販売価格上昇の影響は受けているが、点数減の傾向が収まり比較的好調に推移した。レトルト食品や、パスタなど乾麺類は好調だが、低価格商品への需要シフトを指摘するコメントが多い。食用油や調味料などは単価上昇と家庭調理需要の継続に支えられ引き続き堅調。高い気温で推移し、そうめんなど涼味関連も好調、菓子や酒類も好調となった。米類は回復がみられた店舗が多い。節約志向の高まり、PB商品の伸長を指摘するコメントが多くみられた。



## 7. 非食品 DI：0.0（横ばい）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	9.1	29.9	31.7	23.8	5.5	-3.4
非食品（当月）	8.4	26.6	29.4	28.0	7.7	0.0



引き続きマスクやハンドソープ、除菌関連などの衛生用品は需要減少の影響を受けているものの、単価が上昇しているペットフードや家庭用洗剤などが好調に推移した。トイレtpーパー、キッチンペーパーなどの紙製品、カセットコンロやレジヤシートなど行楽向け商品も好調に推移。気温が高めに推移し、殺虫剤や虫ケア用品などの動きがよかった。ドラッグストアとの競合の厳しさを指摘するコメントがみられた。

### カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20      好調： 20 ～ 10      やや好調： 10 ～ 0  
 やや不調： 0 ～ -10      不調： -10 ～ -20      かなり不調： -20～

### 2023年7月調査（6月実績）キーワードTOP3

1. 値上げによる数量減が収まる傾向
2. 高い気温で推移
3. 低価格商品への需要シフト

### （参考）2022年7月調査（6月実績）キーワードTOP3

1. 内食需要低下による来客数、買上点数減
2. 上旬気温低下、下旬高温
3. 仕入価格の上昇

### スーパーマーケット景気動向調査 集計数

6月実績速報版      154社  
 5月実績確報版      177社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 [tokei@super.or.jp](mailto:tokei@super.or.jp)